ライフサイエンス

キーワード：脳出血、炎症・病態生理評価

脳出血動物モデルの病態評価

松村　潔（まつむら　きよし）
工学部　生命工学科　教授

用途・応用分野：基礎医学・薬品開発

■研究シーズ概要

脳出血は死あるいは重篤な後遺症をもたらす。しかし、その治療方法は完全には確立されていない。本研究では実験動物（マウス・ラット）に脳出血を引き起こし、その出血領域の状態と病態生理を解析する手法を確立した。本動物モデルを用いて、新規薬品の有効性などの評価が期待できる。

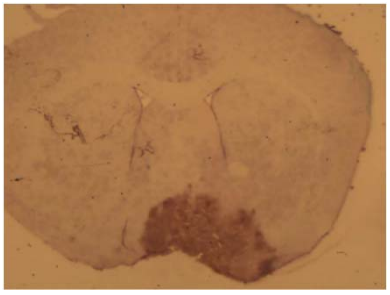

図1　マウスの脳における出血領域の染色（赤血球の酵素活性を利用して発色させた）

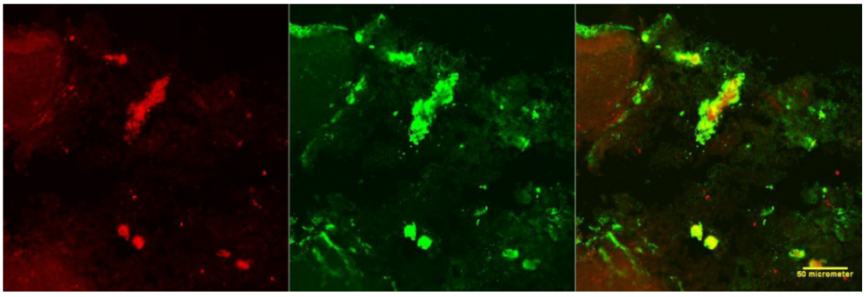

図２　マウス脳出血領域の炎症関連分子の顕微鏡像
炎症関連脂質を産生する酵素（赤）は血小板（緑）に高発現している

■研究シーズの特徴

脳出血領域には赤血球由来のPeroxidase酵素活性が存在する。この酵素活性を利用し、出血領域を組織化学的に可視化する新規手法を確立した。

①脳出血領域の新規染色手法

②脳出血領域の炎症関連分子の評価

③脳出血にともなう発熱など病態生理の評価

大阪工業大学　研究支援・社会連携センター
〒535-8585 大阪市旭区大宮 5-16-1 TEL：06-6954-4140 FAX：06-6954-4066　E-mail：OIT.Kenkyu@josho.ac.jp